

インランドポート(OICT)の概要と 海上コンテナ輸送効率化の取組み



私たちは、北関東における国際物流の拠点を目指します



(株) 太田国際貨物ターミナル

太田国際貨物ターミナル(Oict)の概要 Ota International Cargo Terminal

1

会社概要

- 社名：株式会社 太田国際貨物ターミナル
(群馬県太田市 第3セクター)
- 所在地：本社 / 群馬県太田市清原町12-1
海上CT / 群馬県太田市緑町81-12
- 設立：平成11年5月12日
- 開業：平成12年4月1日
- 資本金：1億4,240万円 (太田市25% 出資)
- 株主数：76 法人・団体



Oict 位置図



平成25年製造品出荷額
太田市: 2兆3,400億円

主な営業業務内容

- 保税蔵置場(東京税関長許可)の管理・運営
・外国貨物の荷捌き・蔵置・通関等
- 貨物取扱：輸出入貨物(外国貨物)、国内・一般貨物
- 物流業務：荷役・梱包・保管・流通加工・物流管理
- 輸送業務：集配・港湾・空港地区輸送(保税運送)
- 賃貸業務：事務室・倉庫等の賃貸

● 本社ターミナル



本社：群馬県太田市清原町12-1（太田流通団地内）

施設概要

開業：平成12年4月1日
 管理事務所：第一管理事務所、第二管理事務所（2棟）
 敷地面積：37,166㎡
 倉庫及び面積：5棟、合計面積 8,550㎡
 保税蔵置場面積：5,464㎡（倉庫及び土地）

取扱貨物：航空輸出入貨物、海上輸出入貨物（FCL,LCL）
 国内一般貨物
 主な業務：貨物集配、倉庫荷役、港湾・空港地区貨物輸送、
 コンテナ荷役（バンニング、デバンニング）、
 梱包、保管、流通加工、物流管理、保税・通関

● 海上コンテナターミナル



海上コンテナターミナル：群馬県太田市緑町81-12（太田さくら工業団地内）

施設概要

運用開始：平成25年4月1日
 管理事務所：1棟（2階建）
 整備面積：37,727㎡（平坦部）
 倉庫及び面積：1棟、1,650㎡（下屋併設）
 保税蔵置場：5,038㎡（倉庫及び土地）
 海上コンテナバンブール：18,000㎡
 主な施設：コンテナチェックゲート、シャーン置場、車両整備場、
 コンテナバンブール、リーファーコンテナ用電源、
 コンテナ荷役機械（3台）

取扱貨物：海上輸出入貨物（FCL）、国内一般貨物
 主な業務：倉庫荷役、コンテナ荷役（バンニング、デバンニング）
 バンブール業務（コンテナシフト、コンテナ蔵置、
 コンテナチェック・メンテナンス）、
 海上コンテナ輸送、保税・通関機能

ターミナル内の開設官署・入居企業等

ターミナル内には、以下の官署の開設及び事業所等が拠点を構えております。

官 署 ・ 業 種	官 署 ・ 団 体 ・ 企 業 名	入 居 事 務 所
税 関	東京税関前橋出張所 太田派出所	本社内・第一事務棟
通 関 業 者	郵船ロジスティクス北関東(株) 群馬支店	本社内・第一事務棟
	(株)阪急阪神エクスプレス 太田支店	本社内・第一事務棟
	(株)日新 太田営業所	本社内・第二事務棟
	(株)近鉄エクスプレス 北関東出張所	本社内・第一事務棟
	(株)ユーユーワールド 太田通関営業所	本社内・第二事務棟
輸 送 業 者	早川海陸輸送(株) 太田営業所	海上CT内事務棟
	須田運送(株) 太田営業所	本社内・第二事務棟
輸 送 ・ 物 流	(株)日本運搬社 群馬営業所	本社内・第二事務棟
検数・検量・検査の証明機関	一般社団法人 全日検 東京支部	海上CT内事務棟
組 合 ・ 団 体	太田流通センター卸協同組合	本社内・第一事務棟
理化学医療機材メーカー	(株)グライナー・ジャパン 北関東ロジスティクスセンター	本社内・第二事務棟
保 税 蔵 置 場	(株)太田国際貨物ターミナル	本社・海上CT



集配輸送機能

荷主への利便性を図るため、集荷・配送業務を行っており、30km圏内を中心に集配網を整備、長距離輸送も可能である。



通関・蔵置機能(保税蔵置場)

海上貨物及び航空貨物ともに取り扱っており、輸出入貨物の税関手続き・外国貨物の荷捌・蔵置が可能である。税関設置により迅速な対応が可能。



保税運送(港湾・空港地区)

京浜港及び成田空港へのトラックによる定期便を運行し、外国貨物を船社・航空会社上屋へ直接搬入又は引取を行っている。



荷役業務

海上コンテナ・トラックへの貨物積卸しをはじめ、荷捌・梱包・付帯作業等の貨物取扱いから流通加工及び物流管理も可能である。



コンテナ蔵置機能(パンプール)

契約船社の空コンテナを蔵置したパンプール機能を整備している。またコンテナの積替え作業及び実入コンテナの一時蔵置も可能である。



コンテナドレイジ輸送

港湾地区コンテナヤードから荷主指定場所までのコンテナ輸送をはじめ、インランドポートを活用したコンテナ輸送が可能である。



通関(税関検査)



爆発物検査装置



倉庫保管



梱包業務



パンプール作業

空港・港湾地区への輸送体制

OICT通関貨物は、空港・港湾地区間が保税運送となります

成田空港向け航空貨物輸送

＜OICT～成田空港／シャトル定期便＞

- ① 11:00発 (10 t 車)
- ② 13:00発 (10 t 車)
- ③ 15:00発 (4 t 車)
- ④ 17:00発 (10 t 車)

当日、成田空港内
航空上屋へ搬入

※ 物量に応じて増便運行
緊急品については、チャーター便対応

京浜港向け海上貨物輸送

＜小口貨物トラック輸送 (LCL) /OICT～京浜港＞

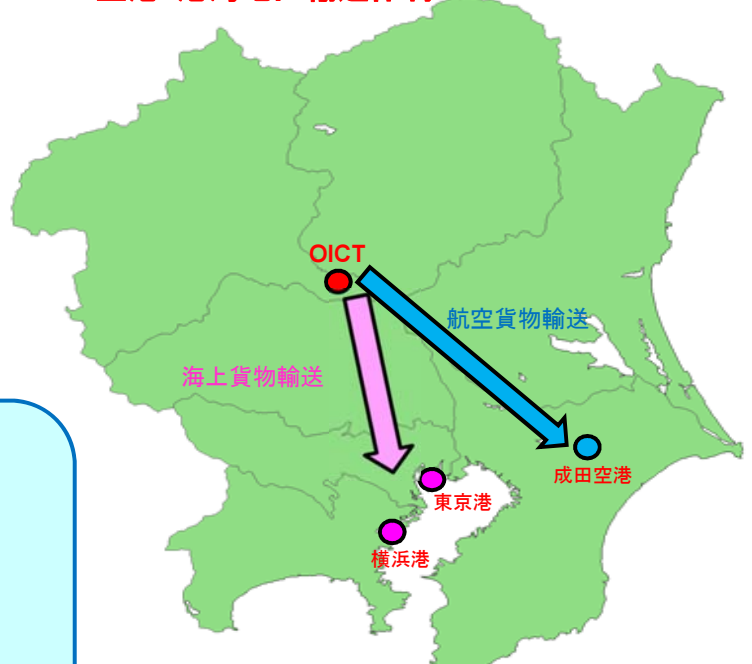
- ・ 輸出：夕方積み → 翌営業日に京浜港上屋搬入 (a m)
- ・ 輸入：輸出搬入便で引取り (p m) → 当日夕刻OICT着

※ 上記の他、チャーター便は柔軟に対応

＜コンテナ輸送 (FCL) /OICT or 荷主～京浜港＞

- ・ 輸出入とも荷主・フォワーダーの指定場所へ輸送

空港・港湾地区輸送体制



＜輸送距離＞

- 成田空港：約130km
- 東京港：約110km
- 横浜港：約130km

平成25年度 海上コンテナ取扱実績

1. 輸出入コンテナ取扱実績
 - ・輸出コンテナ：23,200 TEU
 - ・輸入コンテナ：8,200 TEU
 - ※ 利用港湾：京浜港（東京港 90%、横浜港 10%）
2. コンテナマッチング実績
 - ・契約船会社：6,500 TEU（K-LINE、OOCL）
 - ・荷主CRU：730 TEU
3. OICT施設でのコンテナ積卸
 - ・輸出（バンニング）：4,700 TEU
 - ・輸入（デバンニング）：230 TEU



バンプール契約船会社 (2014.12.1現在)

- ・ K-LINE
 - ・ OOCL
- 2014年10月～運用開始船会社
- ・ MOL
 - ・ NYK
 - ・ チャイナ SHIPPING

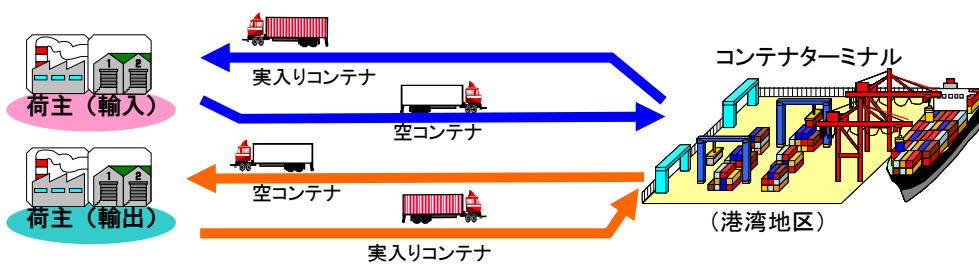
※ その他、一部荷主のCRUのバンプールとして、施設利用

海上コンテナ輸送効率化の取組み

1. コンテナマッチングの推進と拡大
 - ・ 契約船会社の拡大、利用荷主のCRUの推進等
2. 海上コンテナターミナルの施設整備
 - ・ コンテナ蔵置スペースの確保、荷役機械及び施設の充実

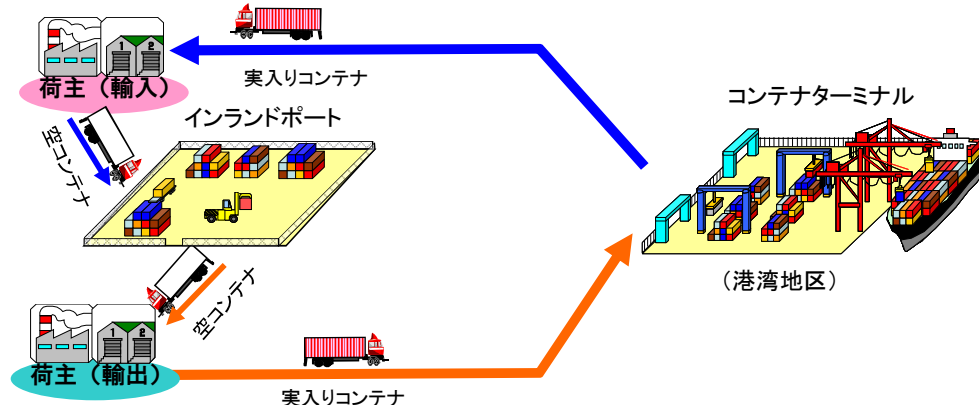
OICTの取組み① コンテナマッチングの推進と拡大

■現状のコンテナ輸送(港湾地区～荷主間の往復輸送)



- ・現状のコンテナ輸送は、港湾地区(CY)と背後圏(荷主)間の往復輸送が基本で、片道は空コンテナを輸送している。(空コンテナの長距離輸送の実態)
- ・現在の港湾地区コンテナターミナルは非常に混雑し時間的制約もあるため、空コンテナの返却・引取についても容易ではない。(混雑、待ち時間、時間内対応)

■インランドポートを活用したコンテナ輸送(コンテナマッチング)



- ・インランドポートを活用して空コンテナを蔵置、輸入コンテナを輸出コンテナに転用(マッチング)することで輸送の効率化を図る。
- ・インランドポートでの空コンテナの返却・引取が可能となることで、空コンテナの輸送距離が大幅に削減できる。
- ・荷主から近い距離に空コンテナの蔵置場所があり、混雑・待ち時間の問題も解消され、時間的制約についても調整可能となる。(緊急・時間外対応も可能)

【期待される効果】

- 輸出入双方の空コンテナ輸送距離が削減され、輸送コスト・CO2等の削減が可能となる
- 港湾地区の混雑緩和に寄与し、リードタイム短縮が可能となる

コンテナマッチングのメリット

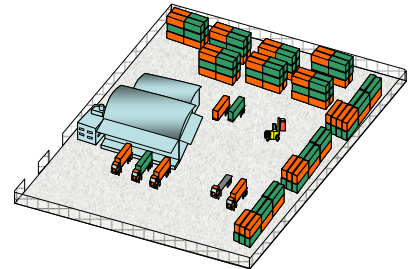
- ① 空コンテナの輸送距離削減 (Co2、輸送コスト削減)
- ② リードタイム短縮 (荷主の近くで返却・引取が可能)
- ③ オープン時間の柔軟な対応 (時間外も調整)
- ④ コンテナの保管、チェック・メンテナンス機能
- ⑤ 港湾地区の渋滞・混雑緩和に寄与

コンテナマッチングの課題

- ① 利用荷主が輸出型 (輸出入コンテナのバランス)
- ② 荷主はマッチングによる効率化に期待大であるが、船社・コンテナサイズ・スケジュール等が不一致
- ③ 船会社は、コンテナ管理上の問題で積極的でない
- ④ マッチングを成立・拡大するための手段が少ない
- ⑤ コンテナ管理の責任範囲 (ラウンドユース: リスク発生)
- ⑥ 輸送効率化には、車両(配車)のマッチングも重要
- ⑦ インランドポートの機能強化と利便性向上

コンテナマッチングの取組み

- ① 利用荷主へのPR活動及び誘致活動による利用拡大
- ② 利用船社の誘致活動による契約船社拡大
- ③ コンテナ取扱の情報収集(輸出入者・船社・取扱量等)
- ④ 船社バンプールのPR(返却・引取)、空コンテナ確保
- ⑤ 船社・通関業者・輸送業者等と連携し、利用推進
- ⑥ コンテナ管理の業務分担及び責任範囲の明確化
- ⑦ 輸送体系及び輸送体制の構築(車両マッチング)
- ⑧ コンテナマッチングの情報管理体制の構築
- ⑨ 港湾関係者や港湾事業者との情報交換及び連携
- ⑩ インランドポートの機能強化と京浜港の補完機能



OICTの取組み② 海上コンテナターミナルの施設整備事業

■OICTの現状(コンテナ蔵置状況)



倉庫脇の蔵置状況

通路等の蔵置状況

- ・太田市は製造品出荷額が関東地方で4番目であり、周辺地域も含めて輸出入貨物取扱が多い地域である。
- ・北関東自動車道が全線開通したことによる利便性向上により、更なる貨物需要が見込まれる。
- ・OICTの既存施設では、本来の空コンテナ蔵置場所のみでは保管しきれない状況にあり、倉庫脇や通路等にまで点在して置いている状況である。また、近年では輸入コンテナの実入コンテナ蔵置の需要も増え、益々狭隘化が進んでいる。

→ **海上コンテナに特化した拡張施設整備を推進**

■本社施設のバンプールスペース



本社ターミナル内のコンテナバンプールを拡張施設(海上コンテナターミナル)に移設する(平成21年度～平成24年度の施設整備事業)

■海上コンテナターミナルの拡張整備計画



拡張施設のイメージ図

平成25年4月運用開始

★新たに整備する施設は、海上貨物に特化して使用(京浜港の補完施設として一翼を担える施設整備)

■施設整備計画(平成21年度～平成24年度事業)

- ・所在地：群馬県太田市(太田さくら工業団地内)
- ・整備敷地面積：約37,700 m²
- ・バンプール面積：約18,000 m²(最大1,000TEU)
- ・倉庫面積：約1,650 m²
- ・保税蔵置場面積：約5,000 m²

■ターミナルの主な機能(業務内容)

- ・コンテナの通関(外貨蔵置、荷積卸し、仕分、貨物蔵置等)
- ・コンテナの積替及び蔵置(空コンテナ、実入コンテナ)
- ・コンテナのメンテナンス(チェック、清掃、修理等)

* 通関保税エリア、コンテナバンプール、コンテナチェックゲート、コンテナメンテナンス場、シャーン置場、荷役機械等を整備

バンプール面積は現施設の約2.5倍のスペースを確保

● 海上コンテナターミナルの全景

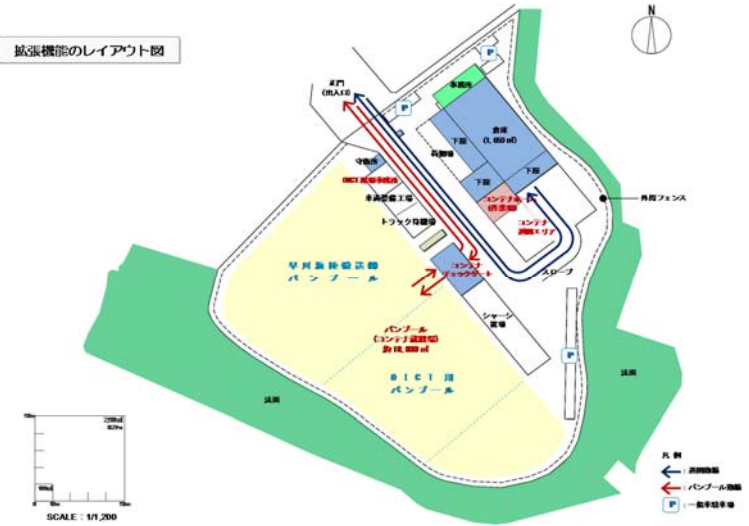


所在地：群馬県太田市緑町81-12（太田さくら工業団地内）

施設概要

運用開始：平成25年4月1日
 管理事務所：1棟（2階建）
 敷地面積：37,727㎡（平坦部）
 倉庫及び面積：1棟、1,650㎡（下屋併設）
 保税蔵置場：5,038㎡（倉庫及び土地）
 海上コンテナバンプール：18,000㎡
 主な施設：コンテナチェックゲート、シャーシ置場、車両整備場、
 リーファーコンテナ用電源、コンテナ荷役機械

取扱貨物：海上輸出入貨物（FCL）、内国貨物
 主な業務：倉庫荷役（バンニング、デバンニング）
 バンプール業務（コンテナシフト、コンテナ蔵置、
 コンテナチェック・メンテナンス）、
 海上コンテナ輸送、保税・通関機能



海上コンテナのハンドリング作業



海上貨物のバンニング作業

海上コンテナターミナルの主な施設機能

● 海上コンテナターミナル全景



正門



事務所棟(2階建)



守衛所・現場事務所



倉庫(1,650㎡)



保税蔵置場(倉庫)



倉庫下屋(保税)



車両・コンテナ整備場



コンテナチェックゲート



シャーシ置場



コンテナ通関エリア(保税)



コンテナ下屋作業場



コンテナ荷役作業(積卸)



荷役機械(トップリフター)



コンテナバンプール



荷役機械(リーチスタッカー)

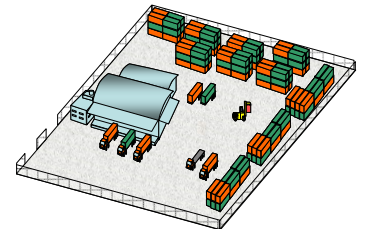


リーファー用電源

荷主・物流業者・輸送業者などから弊社へコンテナマッチング(契約船会社及びCRU)に関する問い合わせ・要望等を多数頂いております。また、弊社の利用推進活動からのご意見も含め以下に報告いたします。

● 問合せ・要望事項等

- ・契約船会社の船会社名・オープン時間・利用方法は？ また、費用は発生するのか？
 - ・港湾地区CYと比べて、コンテナの返却・引取時間はどれくらい違うか？ また、時間外の対応は可能か？
 - ・契約船会社の拡大とインランドデポの機能強化をして、利便性向上を図ってほしい。
 - ・CRUは、どのように行なえば良いか？ メリット及びデメリットは？
 - ・コンテナドレージ輸送費のコスト削減をしたいが、CRUを行うことによりどのくらいコスト削減になるか？
 - ・自社利用コンテナ(輸出又は輸入)の相手先利用者を探してほしい。又は、相手先荷主を紹介してほしい。
 - ・CRUに関する情報手段がないため情報の場がほしい。
 - ・船会社は、CRUについて積極的でないように思われるが、CRU成立のための条件等はあるのか？
 - ・CRUでインランドデポを利用の場合、費用はどれくらいかかるのか？
 - ・CRUでインランドデポの費用が発生するのでは、CRUを行って輸送コスト削減のメリットがない。
 - ・コンテナにダメージがある場合の返却はできるか？
 - ・空コンテナをパンプールに返却後、他のコンテナを積んで輸送できるようコンテナの確保してほしい。
 - ・CRUを行うためにコンテナを保管してほしい。また、輸送のためのシャーシ置場を確保してほしい。
 - ・インランドデポへのコンテナ輸送業者は、外部輸送業者でも受入は可能か？
 - ・CRUを行うことによる補助金、インセンティブ等はあるのか？
 - ・CRUの輸送上の問題点(運行管理上の拘束時間、港湾地区CYへの搬入時間等)があるのではないか？
- ・CRU推進協議会とはどのようなものか、だれでも参加ができるのか、情報がほしい。



私たちは、北関東における国際物流の拠点を目指します！



お問合せ先

株式会社 太田国際貨物ターミナル

群馬県太田市清原町12-1

電話：0276-20-5076 (営業部直通)

FAX：0276-37-8335

担当：営業部 荒井

Mail：arai@oict.co.jp